

プロジェクト課題活動実績

課題名：経営複合化を目指す（農）松屋の経営体質強化

下関農林事務所農業部 チーム員：高津 末廣、馬屋原、光永

<活動事例の要旨>

（農）松屋において、基盤整備事業を見据えた営農計画の作成を進めるとともに、水稻の単収安定・園芸品目の生産拡大を図った。理事会をつうじて基盤整備後の営農計画を検討し、麦類の栽培計画（麦種、面積、乾燥調製体制）が固まった。また将来的な労力確保のため、後継者リストを整理するとともに雇用の受入にむけ研修生受入を試行的に実施した。

水稻は、水管理講習会や調査ほ場を活用した指導により、28年産は平均単収が526kg/10と良好であった。

園芸品目ではゆり球根が単収、収支とも安定し、主要品目として定着しつつある。また28年度に実証したミニ白菜も比較的単収が確保され、継続して栽培することとなった。

その他、ばいれしょ、キャベツ、については、栽培管理を園芸担当理事、総務担当理事と調整を図りながら進めてきたが、安定した単収確保まではいたらなかった。

1 普及活動の課題・目標

(1) 背景

（農）松屋は、下関市王喜地区の干拓地にあり、経営面積86ha、水稻を中心とした土地利用型作物中心の集落営農法人である。

米価低迷、水稻単収が不安定のため、経営が厳しい状況にあり、土地利用率の向上や経営の複合化により経営体質の強化が急務である。

そこで、水稻や園芸品目の収量安定を図るとともに、基盤整備事業後を見据えた営農計画の作成及び人材確保等必要な支援を行い、経営体質の強化を図る。

(2) 目標 (H28)

経営計画作成

新たな園芸品目の提案・実証 1

後継者候補リストの作成

2 普及活動の内容

(1) 基盤整備後の経営計画の検討

○理事会を活用し経営計画の検討を進めた。将来導入する麦種や必要な機械体系について提案した。

○法人理事へ組合員及びその後継者の従事見込みを整理。後継候補者が少ない状況が認識された。

○将来的な労力不足に対応するため、雇用の必要性を提示。後継者確保に係る情報提供を行うとともに農大研修生(短期)の受入を支援し、雇用にむけた体制作りを支援した。

(2) 水稻の栽培指導

○水稻調査ほ場に栽培管理掲示板を設置し情報提供を行うとともに定点調査と合わせて、法人理事へ栽培管理指導を行った。

(3) 野菜・花卉の栽培指導

○ばれいしょ、キャベツの栽培指導

・ばれいしょ、キャベツの土壌分析を行い施肥設計を指導した。定期的に巡回するとともに野菜担当理事（栽培担当）と総務担当理事（人員手配）の連携を促し、管理作業が遅れないように支援した。

○ユリ球根増殖の栽培指導

・県就農・技術支援室、花き振興センターと連携し、栽培管理指導を行うとともに球根増殖に係る種球根の手配、出荷の調整を行った。

(4) 新たな園芸品目の提案・実証

○経営試算ソフトZ-BMFを活用し、(農)松屋に適する園芸品目を模索した。試算により白ネギを選定し、必要な機械・経営試算等を理事会に提示した。調整労力が多いことから採用はされなかった。

○市場から要望の高いミニ白菜を実証することからその栽培支援を行った。

○ミニ白菜の品種選定、施肥設計等の提案をするとともに生育調査を行い管理指導に活用した。

3 普及活動の成果

○ほ場整備後に導入する麦の麦種、乾燥調製、導入機械の認識が高まった。

○法人の後継者リストが整理されるとともに就業者確保に向けた課題が整理されつつある。

○水稻の単収が向上し、平均単収526kg/10aと過去最高の単収となり、経営安定に大きく寄与した。

○ゆり球根の生産が安定し、法人の経営品目として定着した。

○ミニ白菜の栽培実証では、約3t/10aと概ね良好な生育と他の園芸品目と作業分散が図れたことから次年度以降も継続して取り組むこととなった。

4 今後の普及活動に向けて

○法人就業や水稻の単収安定については、JA下関担い手組織協議会と連携を図り、課題解決への支援を行う。

○ゆり球根については、平成30年に開催される「やまぐちゆめ花博」にむけ一層の増産が必要であり、引き続き支援を行う。

○キャベツ・ばれいしょの単収低迷は、作業指示の遅れが主要因と推察される。適期の作業指示及び作業ができる体制整備を支援する。